

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町浜858番地
自己評価作成日	H 23年 6月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がくつろげる環境作り。
地域のボランティアの方々との交流を持ったり、イベントを開催したり、地域に密着したグループホームになるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療機関が事業所と同じ敷地内にあることから、利用者の医療や健康管理には十分配慮されており利用者は安心して暮らしている。地域の行事に利用者と共に積極的に参加し、イベント時には事業所を休憩所に提供したり、中学生の職場体験を受け入れる等、地域との連携を図っている。管理者と職員はチームワークがよく、利用者本位になるよう検討しながら日々のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム浜っ子

(ユニット名)

浜っ子2F

記入者(管理者)

氏 名

清水 みずほ

評価完了日

H23年 6月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を理解し、仕事に取り組んでいる。 地域密着を理念に反映させる様に考慮中である。	
			(外部評価) 管理者と職員は、設立時に作成した理念についてミーティング等で話し合い、実践につなげている。基本理念をもとに具体的な目標作成に向けて協議している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をもとに具体的な目標の作成に期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事に出掛けたり、ホームで夏祭りの行事に招いて、地域とのつながりを保っている。 また、ボランティアの人たちとの交流に努めている。	
			(外部評価) 地域の回覧板で、事業所の夏祭りのお知らせをしている。秋祭りには神輿や獅子舞が来てくれる。また、紙芝居やフラダンスなど地域のボランティアに来てもらったり、中学生の職場体験やクリスマスには幼稚園児の訪問を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域貢献があまりできていないのが現状である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で、意見や報告を取り入れて、地域の方々から意見などあれば、すぐ取り組めるようにしている。	
			(外部評価) 町職員、地域住民代表者らを招き、2か月毎に開催している。参加者から出された意見や要望をサービスの向上に活かしている。今後、事業所の行事と合わせて開催し、様々なメンバーの参加を目指している。	自己評価、外部評価の結果を開示し事業所の課題を挙げて、議題によっては各方面の方の参加も依頼しながら、会議の活性化を図ることを期待したい。また会議内容を分かりやすく記録することが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 役場の方々に協力していただき、日々取り組んでいる。	
			(外部評価) 町役場が事業所の近くにあり頻繁に行き来している。担当者に相談したり、分からないことを教えてもらったり、話しやすい関係づくりができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで研修し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 身体拘束の具体的な行為は理解できている。	
			(外部評価) 玄関は夜間のみ施錠し、各階の出入り口は自由に出入りできる。ミーティングで身体拘束について話し合ったり、受講した研修の報告を行う等、拘束について正しく理解するよう努めている。夜間のみ、家族の了解を得てベッド柵を使用している利用者がいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルにより研修を行っている。また、身体の変化に注意し、虐待がないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開催したり外部の研修に参加し、ミーティングで全職員と共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、納得していただいている。 また、不安や疑問点にも答えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。 サービスに対するアンケートを年に1回実施している。それをもとにサービスの向上に努めている。 年に数回家族会を開催している。 (外部評価) 重要事項説明書に苦情申立先を明記し、意見箱を設置している。年末にアンケートを実施したり、家族会から要望や意見を聞き取っている。出された意見や要望はミーティングで話し合い、運営に反映させ結果を家族に報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日ミーティングを行い、意見や改善点などあれば、提案しみんなで話しあっている。 (外部評価) 代表者や事務長は、毎月実施するミーティングで出された職員の意見や提案を管理者から報告を受け、事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己採点票を書き、それをもとに個人面談を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 知識や技術を身につける為、外部への研修に参加できるように努めている。また、資格取得を目指し日々努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部への研修に参加して、他の事業所の方と接し、意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の面談で情報収集して、ミーティングや申し送りですタッフ間で共有し、安心して過ごせるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 初期面談時に、不安なことや要望を詳しく聞き、入所 後も連絡を密にとっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 職員でカンファレンスを行って意見を出しあい、ケア プランに反映している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 生活する中で一緒にできることを考え、外出したり良 い関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話や面会時に近況を報告している。また、毎月外出 した時やホームでの様子を手紙に書き、写真と共に 送っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 買い物へ行く時は、なじみのスーパーに出掛けたり、 地域への行事参加で旧友とのふれあいができるよう にしている。 (外部評価) 利用者の友人の訪問は、相互の高齢化もあり減少して いるが、買い物やドライブの際に馴染みのスーパーや 馴染みの場所に行っている。はがきや手紙の代筆をし て関係支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の性格を理解し、間にスタッフが入り利用者同士、良好な関係になるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 依頼があれば、協力・相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの立場にたち、その人らしい生活ができるよう努力している。 家族に情報をもらい、検討・対応している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難な場合は日々のケアの中で表情やしぐさから汲みとったり、家族から情報をもらって本人本位に検討している。利用者の情報は介護記録に記し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 面談時にアセスメントし生活歴など、情報収集できている。その後は、利用者さんの様子を見ながらケアプランに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活を通して、健康状態や様子をみて、困っていることがないか把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 年に2回ケアプランを見直し、毎日のミーティングでの話し合い、本人や家族の希望を取り入れ現状を見ながら、ケアプラン作成している。	
			(外部評価) アセスメントをもとに、カンファレンスで職員全員で話し合って計画を立てている。定期的にモニタリングを行い6か月毎に見直しを行っている。変化があった時は随時変更をしている。毎月、家族に写真を添えて書面で近況報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の出来事や様子など個別に記録し、毎日のミーティングで職員間で情報を交換している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 日々の体調や食事量等で、利用者個々の状態をつかみ対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアさんの協力の下、趣味や特技が活かせる環境作りを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 訪問診療に来てもらったり、かかりつけ医への受診が できるよう支援している。 (外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関が受診できるよう努 めている。利用者それぞれのかかりつけ医との関係を 築きながら、適切な医療を受けられるよう支援してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 関連病院の看護師さんからアドバイスを受けて、些 細なことでも相談にのっていただいている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 情報交換や相談を行い、家族を通して早期退院に向 けての働きかけをしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアは実施していないことを入居時に説明 している。利用者の状況に応じて話し合いを重ねてい る。 (外部評価) 重度化や終末期のあり方について入居時の早い段階 に、利用者や家族と話し合い、最良のケアが提供でき るよう方針を共有している。	重度化や終末期に至った場合、事業所ができることを 明確にした指針の作成に期待したい。その指針が利用 者や家族にも納得してもらい共有できるように話し合 いを行う等望みたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の方に来てもらい、通報訓練をしたり、研修で勉強してきたことをミーティングで話し合い、社内研修している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の方に来ていただき、消火訓練・避難訓練を実施している。 地域の方々の協力が得られるよう努力している。	
			(外部評価) 防災マニュアルや避難経路図、緊急連絡網を作成し消防署の協力を得て、年2回の防火や避難訓練を行い、訓練記録を作成している。	火災や地震、津波などの災害対策として、自主的避難訓練の実施が望まれる。地域の協力が確保できるよう運営推進会でも議題に挙げる取り組みを期待したい。緊急時の避難先の確認、水や食料の備蓄の用意などが望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) オムツ交換・トイレ・更衣する時は、ドアの開閉に気をつけている。 命令語や指示語は使わない。	
			(外部評価) 毎年1回の学習会や毎月のミーティングでも、利用者の尊厳とプライバシーの確保について話し合い、声かけや対応について確認し合っている。名前の呼び方も親しみを込めながらも馴れ合いにならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活において、個人の意思を尊重している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調やペースに合わせ、希望通りの生活ができるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出する時は、本人の希望も聞きながら、その人らしいおしゃれができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の食材を使った料理を作ったり、配膳や片付けなど一緒にできる事はしている。 (外部評価) 利用者の好みも取り入れながら、職員が献立を立てている。調理の下ごしらえや味付、準備や後片付けなどを無理強いをしないよう気を付けながら利用者にも手伝ってもらっている。献立は、今後、役場の管理栄養士にチェックしてもらう予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食、入浴など水分補給は必ずして、脱水症状にならないよう気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯ブラシやコップの使用が可能な人は声掛けし、困難な人には介助して口腔内の清潔が保てるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 座位が保てる場合は、トイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、できるだけトイレでの排泄を支援している。座位の困難な利用者等、数名の利用者が夜間のみおむつやリハビリパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食生活や水分補給に気をつけ、チェックし記録している。便秘になった時は、医師への報告を行い、予防や対応に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や状況をみて対応している。 長湯は避け、入浴後の水分補給に気をつけている。	
			(外部評価) 最低週2回、希望やタイミングに合わせて入浴を行っている。利用者の状態を考慮しながら楽しみの一つとなるよう支援をしている。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫したりタイミングを見ながら気持ちよく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その日の体調を優先している。 安心して睡眠がとれるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各階に一人ひとりの処方箋をファイルし職員がすぐ見れるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活での役割を見つれたり、買い物や散歩に出掛け気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとに行楽・遠出を計画し実行している。	
			(外部評価) 初詣や花見、気候が良い時には動物園などへ外出し、季節を肌で感じてもらうよう努めている。日常的には、近隣の公園やスーパーへ買い物に出かけている。家族やボランティアにも協力してもらい年2回、全利用者の外出を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時の買い物の支払いなど自己管理できる人は、所持している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花や、四季がわかる飾りつけをみんなが共有するリビングにしている。	
			(外部評価) 共用の空間はゆったりとして利用者にとって気になる光や不快な臭いもない。利用者と職員が一緒に作った作品や利用者の様子を撮った写真を飾り、楽しい雰囲気づくりを心がけている。	トイレや浴室は汚れやすく、清潔さが特に要求される所でもある。年月が経つと設備も汚れたり、においが出る等してくるため、日頃からの清掃や換気に心がけ、清潔がいつまでも保てるよう取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有スペースで孤立しないよう、利用者同士の共通の話題の提供を行っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に自宅で使っていた食器や家具など、家庭と変わらない環境を作れるようにしている。	
			(外部評価) 窓のカーテンは防炎タイプにしている。ベッドやテレビ、整理ダンス等使い慣れた物が利用者や家族の希望に応じて持ち込まれている。家族の写真や手芸品も飾られ利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの能力に応じた環境作りを心がけ、障害物などは排除し、転倒防止に努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873500650
法人名	医療法人 河辺整形外科
事業所名	グループホーム浜っ子
所在地	愛媛県伊予郡松前町浜858番地
自己評価作成日	H 23年 6月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成23年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとくつろげる空間があり、体操やレクリエーションなど生活の中d機能低下を予防しています。病院と併設し、医療面で安心して生活できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療機関が事業所と同じ敷地内にあることから、利用者の医療や健康管理には十分配慮されており利用者は安心して暮らしている。地域の行事に利用者と共に積極的に参加し、イベント時には事業所を休憩所に提供したり、中学生の職場体験を受け入れる等、地域との連携を図っている。管理者と職員はチームワークがよく、利用者本位になるよう検討しながら日々のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらい			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらい			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			○ 3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			○ 3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			○ 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム浜っ子

(ユニット名) 浜っ子3F

記入者(管理者)

氏 名 清水 みずほ

評価完了日 H23年 6月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を理解し、その気持ちで取り組んでいる。 地域密着を理念に反映させる様に考慮中である。 (外部評価) 管理者と職員は、設立時に作成した理念についてミーティング等で話し合い、実践につなげている。基本理念をもとに具体的な目標作成に向けて協議している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 催し物をする時には、来所していただき、地域の催し物にも参加している。 地域のボランティアの方々との交流に努めている。 (外部評価) 地域の回覧板で、事業所の夏祭りのお知らせをしている。秋祭りには神輿や獅子舞が来てくれる。また、紙芝居やフラダンスなど地域のボランティアに来てもらったり、中学生の職場体験やクリスマスには幼稚園児の訪問を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域貢献があまりできていないのが現状である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に、運営推進会議を開き、利用者の状況報告や 事業報告をしている。 アドバイスをいただき、サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 町職員、地域住民代表者らを招き、2か月毎に開催し ている。参加者から出された意見や要望をサービスの 向上に活かしている。今後、事業所の行事と合わせて 開催し、様々なメンバーの参加を目指している。	自己評価、外部評価の結果を開示し事業所の課題を挙 げて、議題によっては各方面の方の参加も依頼しなが ら、会議の活性化を図ることを期待したい。また会議 内容を分かりやすく記録することが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護保健課の方々、包括支援センターの方々に協力し ていただき、取り組んでいる。	
			(外部評価) 町役場が事業所の近くにあり頻繁に行き来している。 担当者に相談したり、分からないことを教えてもらっ たり、話しやすい関係づくりができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ミーティングで話し合いをし、ホーム外の研修に参加 をして、後で、職員みんなで勉強会を行って。	
			(外部評価) 玄関は夜間のみ施錠し、各階の出入り口は自由に出入 りできる。ミーティングで身体拘束について話し合っ たり、受講した研修の報告を行う等、拘束について正 しく理解するよう努めている。夜間のみ、家族の了解 を得てベッド柵を使用している利用者がいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) マニュアルにより研修を行い、事例を元に話し合いをしている。 また、身体の変化に注意し、虐待がないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会を開催したり、外部の研修に参加し、ミーティングで全職員と共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、契約書・重要事項説明書を詳しく説明し、納得していただいている。 また、不安や疑問点にも答えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置している。 サービスに対するアンケートを年に1回実施している。それをもとにサービスの向上に努めている。 年に数回家族会を開催している。 (外部評価) 重要事項説明書に苦情申立先を明記し、意見箱を設置している。年末にアンケートを実施したり、家族会から要望や意見を聞き取っている。出された意見や要望はミーティングで話し合い、運営に反映させ結果を家族に報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日ミーティングをしている。 その際に意見を述べ、反映している。 (外部評価) 代表者や事務長は、毎月実施するミーティングで出された職員の意見や提案を管理者から報告を受け、事業所の運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に1度給与の見直しがあり、努力や実績が反映されるようにしている。 また、勤務日数や労働時間は融通がきくようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加できる環境作りをしている。 また、資格を積極的に取るように奨励している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修への参加で、他の施設の方々との交流をしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 不安なことや要望などには、その都度、話し合って安心して生活が送れるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族との面談の時に、不安なことや要望等を聞き、入所後も、連絡が取れるようにして、要望が言いやすい関係をつくっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ミーティングの時に、職員でカンファレンスを行っており、どのように支援していくか見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活していく中で、利用者1人1人の個性を知り出来る事を一緒におこない、より良い関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 定期的に近況を書いた手紙と写真を送らせていただいている。また、面会に来られた際にも、日頃の様子などを報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みのあった、ご近所の方やご友人などいつ訪ねて来られても暖かく迎える。 (外部評価) 利用者の友人の訪問は、相互の高齢化もあり減少しているが、買い物やドライブの際に馴染みのスーパーや馴染みの場所に行っている。はがきや手紙の代筆をして関係支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 1人1人、孤立しないように努めている。 レクリエーションなどを通じ、関わりを持ち、深めている。 また、体調が悪い時など、利用者同士励ましあったりして支え合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 依頼があれば、協力・相談に応じている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で利用者と話をし、希望等があれば、一人ひとりの意思を尊重して努めている。また、意思を伝えられない利用者などには職員全員で話し合いをしている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難な場合は日々のケアの中で表情やしぐさから汲みとったり、家族から情報をもらって本人本位に検討している。利用者の情報は介護記録に記し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に、これまでの生活歴など事前に資料などで把握し、それを元に、入所後は観察や会話の中での今後のケアの参考になっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常生活の中で、一人ひとりの健康状態、出来ること出来ない事の把握につとめている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 年に2度、ケアプランを見直している。担当者会議を開き、課題を見つけ、ミーティングで話し合い、家族・医師からの助言を取り入れケアプラン作成をしている。 (外部評価) アセスメントをもとに、カンファレンスで職員全員で話し合って計画を立てている。定期的にモニタリングを行い6か月毎に見直しを行っている。変化があった時は随時変更をしている。毎月、家族に写真を添えて書面で近況報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に日々の出来事や変化など、小さなことでも記録している。また、変化などがあれば、ミーティング時に職員で話し合いをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 日々の体調や食事の量などで利用者1人1人の状態をつかみ対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアや役員の協力のもと、趣味や特技が活かせる環境づくりを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ホームの隣に病院があり、受診・訪問診察をしていた だいてる。 専門病院への受診ができるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関が受診できるよう努 めている。利用者それぞれのかかりつけ医との関係を 築きながら、適切な医療を受けられるよう支援してい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 些細な、ちょっとしたことでも相談して、対処方法な ど指示してもらっており、時には訪問していただい ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病歴や生活歴など情報を提供している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の変化に応じ、話し合いを家族や医師とし、そ れぞれの手助けをしている。 契約時にターミナルケアについて説明し、同意を得て いる。	
			(外部評価) 重度化や終末期のあり方について入居時の早い段階 に、利用者や家族と話し合い、最良のケアが提供でき るよう方針を共有している。	重度化や終末期に至った場合、事業所ができることを 明確にした指針の作成に期待したい。その指針が利用 者や家族にも納得してもらい共有できるように話し合 いを行う等望みたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルがあり、それにそって、研修をしている。 消防署の救命講習に参加するようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防署の方々に来ていただいて、避難訓練を行い、教えていただいている。 (外部評価) 防災マニュアルや避難経路図、緊急連絡網を作成し消防署の協力を得て、年2回の防火や避難訓練を行い、訓練記録を作成している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレの声かけ、おむつ交換や更衣時などのドアの開け閉めに気をつけている。 命令語や指示語は使わない。 (外部評価) 毎年1回の学習会や毎月のミーティングでも、利用者の尊厳とプライバシーの確保について話し合い、声かけや対応について確認し合っている。名前の呼び方も親しみを込めながらも馴れ合いにならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々生活の中で、どんな場の動作でも必ず声掛けをして利用者に判断を促している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人ひとり、体調や気分、利用者のペースに合わせて、一日の過ごし方に気を配っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 就寝前や起床時、その日の天候によっても衣服に気を配っている。 お出かけの際にもおしゃれをしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立を作り、毎日偏らない食事や楽しみにしてもらえ るメニューに心配り作っている。 (外部評価) 利用者の好みも取り入れながら、職員が献立を立てて いる。調理の下ごしらえや味付、準備や後片付けなど を無理強いをしないよう気を付けながら利用者にも手 伝ってもらっている。献立は、今後、役場の管理栄養 士にチェックしてもらおう予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、3度の食事量・水分摂取量をチェックしてい る。ご自分で食事・水分摂取のできない方は、職員が 介助して摂取してもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事後に声掛けをして、歯ブラシが使える方はご自分 でしていただいている。 できない方は、口腔介助をして清潔保持している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 毎日の排泄チェックをつけており、1人ひとりの排泄パターンを把握し、時間毎に声掛けをしてトイレで排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、できるだけトイレでの排泄を支援している。座位の困難な利用者等、数名の利用者が夜間のみおむつやリハビリパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェックし、1人ひとり、記録つけている。便秘のときは自然に排便ができるように食事や水分に気をつけている。それでもない時は医師に指示をもらう。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日を決めて、入浴してもらっているが、希望があれば曜日以外でも、いつでも入浴できるようにしている。	
			(外部評価) 最低週2回、希望やタイミングに合わせて入浴を行っている。利用者の状態を考慮しながら楽しみの一つとなるよう支援をしている。入浴の苦手な利用者には、声かけを工夫したりタイミングを見ながら気持ちよく入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の体調や生活習慣を考え、安心できるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全部は把握しきれてない部分はあるが、1人ひとりの薬の処方箋をファイルに閉じて職員全員が見てわかるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活での役割を見つれたり、買い物や散歩に出掛け気分転換を図っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に外出やドライブに出掛けたり、また、家族と一緒にの外出など行っている。	
			(外部評価) 初詣や花見、気候が良い時には動物園などへ外出し、季節を肌で感じてもらうよう努めている。日常的には、近隣の公園やスーパーへ買い物に出かけている。家族やボランティアにも協力してもらい年2回、全利用者の外出を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が出来る方は、ご自分で管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 要望があれば対応している。手紙が届いたら、ご本人に渡し、見えにくい利用者には代わりに読み聞かせてあげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清潔にすることに心がけている。 毎日、掃除し、利用者の各部屋もしている。 トイレ・台所・浴室は使用の都度、掃除している。 (外部評価) 共用の空間はゆったりとして利用者にとって気になる光や不快な臭いもない。利用者と職員が一緒に作った作品や利用者の様子を撮った写真を飾り、楽しい雰囲気づくりを心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングは広く、ソファ・テーブル・テレビなど置いてある。利用者同士、一緒にテレビ見たりソファに座り会話したり楽しく過ごしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時に、使っていた家具や小物などを持参していただいて、今までの生活に近い環境で過ごしていただくよう配慮している。 (外部評価) 窓のカーテンは防炎タイプにしている。ベッドやテレビ、整理ダンス等使い慣れた物が利用者や家族の希望に応じて持ち込まれている。家族の写真や手芸品も飾られ利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者、1人ひとりの安全や、出来ることに気を配りながら、それぞれの環境を作っている。	